

エコアクション21 環境活動レポート

2023年度(2023年4月～2024年3月)



神戸支店
(神戸市中央区 新明海ビル7階)



東京本社
(東京都港区)



名古屋支店
(愛知県名古屋市中区)



富津工場
(千葉県富津市)

目次

1 環境経営方針	2
2 事業活動の概要	2
3 全社指標の見直し	6
4 2023 実績値及び人数比	7
5 環境負荷の目標	8
6 活動計画と取組結果の評価等	12
7 法規制の遵守状況	13
8 経営者による見直し	13
9 その他の課題／評価	13

2024年5月21日
株式会社ジュピターコーポレーション

1 環境経営方針

段階的認証における富津工場運用開始に伴う見直し。

ジュピターコーポレーションは、創立より70年を超え、社是を基本に、海外の先進的な製品と国産の高度な技術を融合した企業活動により、社会、国家とともに成長してきました。

グローバルに活動する企業として、環境性能の高い製品とサービスの提供を通じ、環境保全に取り組み、あらゆる企業活動をつうじ持続可能な社会の実現に貢献します。

1 環境関連諸法規の順守

企業活動の推進にあたっては、関連する諸法規、国際条約、条例等を順守します。

2 環境マネジメントシステムの定着と継続的改善

環境保全活動の運用状況を適時見直し、継続的に改善していきます。

3 環境に配慮した企業活動

取扱製品の材質、使用材料等の環境への影響を把握し、以下の環境負荷の低減を図ります。

- ・電力、燃料の利用低減及び効率的な運用による二酸化炭素の排出量削減
- ・省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)及びリサイクルの推進
- ・環境に配慮した商品・サービスの提供の推進
- ・水資源の節水への努力

4 環境コミュニケーション

本方針を役員・従業員に周知し、環境保全の意識の向上を図るとともに、社外に公表し環境経営の推進にともない、持続可能な循環型の社会において成長を目指し企業価値の向上に繋がります。

2023年12月 1日

株式会社ジュピターコーポレーション

代表取締役社長 浅野 俊康

2 事業活動の概要

(1)事業所名及び代表者名

株式会社ジュピターコーポレーション

代表取締役社長 浅野 俊康

(2)所在地

本社：東京都港区南青山3丁目17-4

東京都港区南青山4丁目18番11号 フォレストヒルズ EASTWING 3階

名古屋支店：名古屋市中区栄5-25-20

名古屋市名東区勢子坊2丁目406-2(名古屋ロジスティクス)

神戸支店：兵庫県神戸市中央区海岸通4番地 新明海ビル703号室

富津工場：千葉県富津市西大和田1174-2

(3)資本金

1億1千万円

(4)設立年月日

昭和23年(1948年)4月13日

(5) 実施体制と環境管理責任者及び部門推進者、連絡先

連絡担当者	所属・役職	TEL FAX	メールアドレス
菊地 善也	環境管理管掌役員・取締役 管理本部長	03-3403-1311 03-5474-7256	y_kikuchi@jupitor.co.jp
内田 修輔	環境管理責任者・事務局長 総務部長	03-3403-1311 03-5474-7256	s_uchidai@jupitor.co.jp

(6) 事業内容

「航空宇宙関連部品の輸入販売」

商社部門と設計・製造・整備部門を併せ持ち、製品と価値を創るメーカー

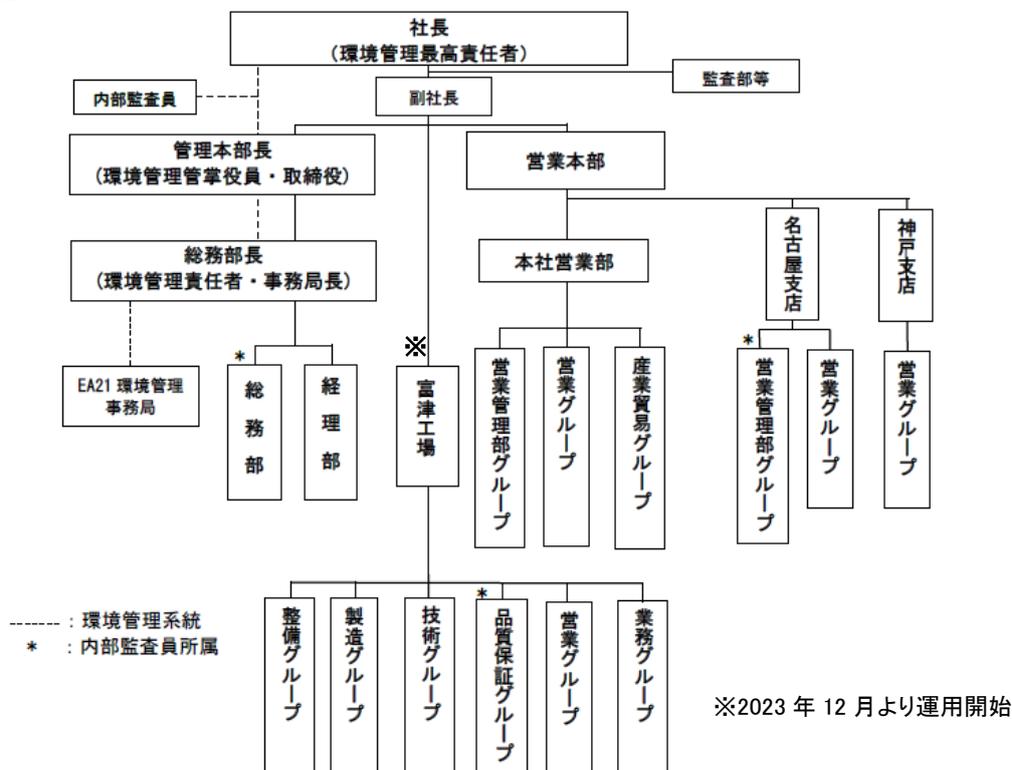


商社部門: 諸外国の有名メーカー代理店として、宇宙・航空・船舶・車輛・医用機材等を取り扱い。
富津工場: 計測装置・コンピューター関連機器・航空機用地上支援機材を製造、シミュレーター・
航空機搭載機器等の修理・保守整備

(7) 活動事業の規模

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年度	前年比
売上高	百万円	11,314	12,609	—	—%
従業員	人	139	137	221	+61.9%
床面積	m ²	1,810	2,129	5,469	+38.9%
参考		商社のみ	本社縫合	富津工場参画	

(8) 組織図



◆航空自衛隊基地内の整備拠点2ヶ所(静岡県浜松市、埼玉県入間市)は対象外とした。最大浜松基地(常駐)3名、入間基地担当(出張)2名
電気水道、一般廃棄物は便宜供与等、車両なし、PC及び小型プリンタは自社持ち込み(PPC用紙は個別に年5000円程度購入)のため弊社負担はほぼない。

(9) 責任と権限

ア 環境管理最高責任者

- ・環境管理管掌役員及び環境管理責任者の任命
- ・内部監査員の任命
- ・環境方針の制定
- ・環境経営システムの全体評価及び見直しを主導する。
- ・中期目標、環境目標、環境活動計画書、環境経営マニュアル、環境活動レポートの承認
- ・年度内部監査計画の承認

イ 環境管理管掌役員

環境管理最高責任者の補佐のほか以下の通り。

- ・経営における課題とチャンスの明確化
- ・効果的で必要十分な実施体制の構築
- ・環境方針の従業員への周知徹底
- ・環境目標及び活動計画の指導
- ・環境経営システムの評価と見直し指導

ウ 環境管理責任者

環境管理管掌役員の補佐のほか以下の通り。

- ・環境経営システム全体の構築・運用・監査にかかわる調整
- ・不適合の処置の責任部門の決定
- ・環境活動レポートの発行

エ エコアクション21環境管理事務局

- ・事務的な判断、方針及び環境経営システムの維持改善のため環境管理責任者の補佐
- ・会社全体の取りまとめ(目標策定・推進・計数管理・改善策検討、計画など)
- ・環境負荷の自己チェックの実施
- ・環境目標の達成見込み及び環境活動計画の実施状況を定期的に調査し評価し社内発表
- ・環境活動レポートの内容(成果)の評価・提案
- ・外部環境情報(苦情を含む。)の集約
- ・文書の配布管理及び原本の保管

オ 内部環境監査員

- ・内部監査は、専従者が行う以外は交差内部監査とする。
- ・予め立案された計画に従って、内部環境監査を準備・実施し結果を環境管理最高責任者及び環境管理責任者に報告する。
- ・監査不適合の処置について、処理責任者部署に助言を行い処置が取られたことと効果を確認する。
- ・当面は、本社、名古屋支店、富津工場に兼務者として任命を受ける。

カ 総務部長

- ・社員教育の一環として、社内ポータルを活用し環境教育を計画する。
- ・社内の環境教育ニーズを取りまとめる。
- ・緊急事態対応訓練を計画する。
- ・環境活動レポートをデータで閲覧できることと、ホームページを活用して利害関係者等に公開する。
- ・内部監査で実施した法規制等の遵守状況を専門的見地から検証する。

キ 各拠点担当

- ・本社は本社営業部、名古屋支店、神戸支店、富津工場に担当者をおく。
- ・なお、内部監査員と兼ねることを防がない。

ク 全従業員

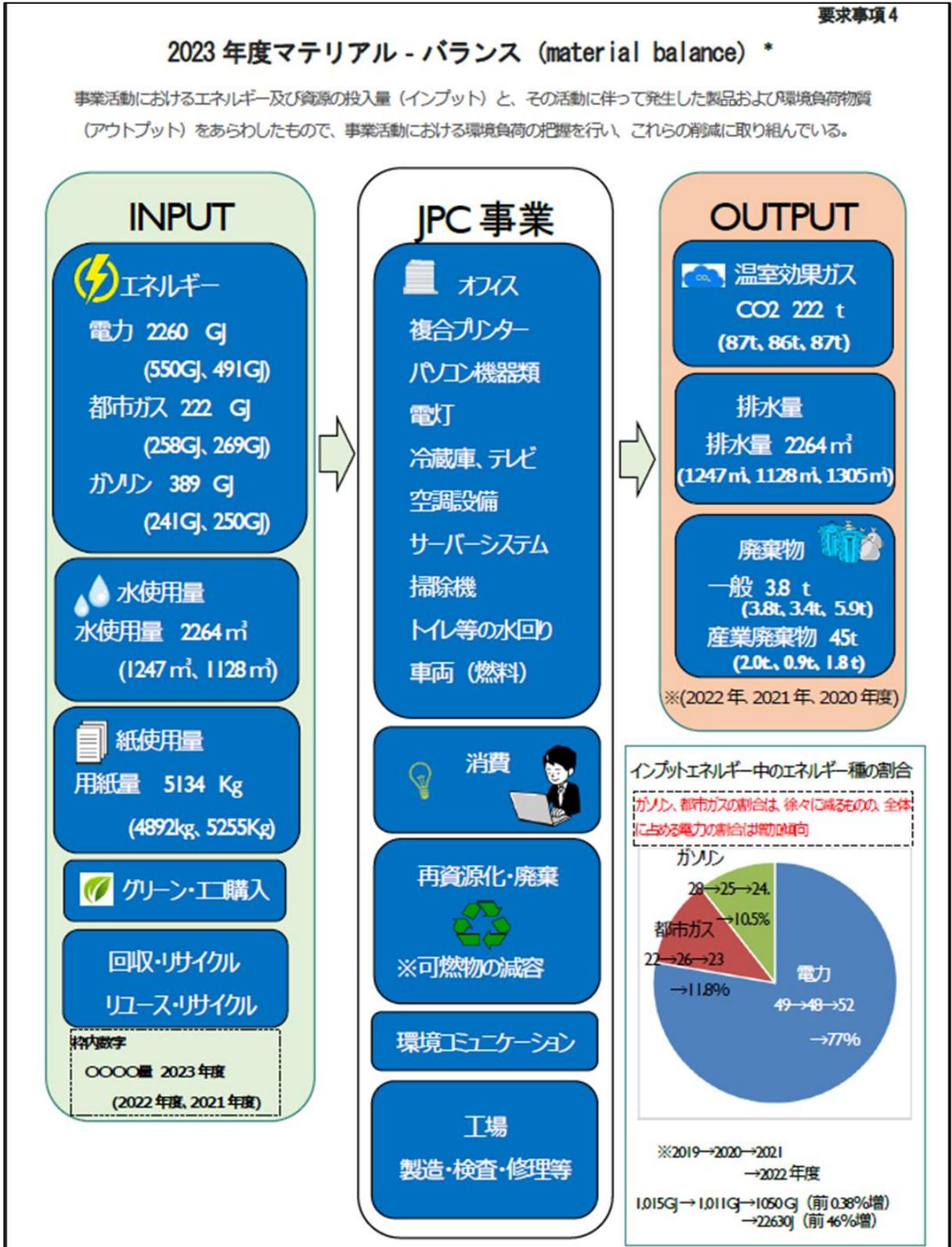
- ・環境方針を理解し、必要な提案を行うと共に環境負荷低減に努力する。

(10) 段階的認証

2018年度から参画の各支店、引き続き富津工場は2度の被災を経て2023年度後半に運用を開始した。

(11) 社業オフィスの活動

事業活動で環境に大きな影響を与えている活動の整理



※()は推移を表し2023年度12月から富津工場が運用開始し集計は年度に遡って算出。

ア エネルギー源別標準発熱量・炭素排出係数

(a) 調整後排出係数:2020 年度

- ・電気/0.277kg-CO₂/kWh 東京ガス(株): 本社
/0.441kg-CO₂/kWh 東京電力エナジーパートナー(株)
: 本社フォレストヒルズ、富津工場
- /0.377kg-CO₂/kWh 中部電力ミライズ(株): 名古屋支店、名古屋ロジ
- /0.350kg-CO₂/kWh 関西電力(株): 神戸支店

- ・都市ガ/2.23kg-CO₂/m³ 東京ガス(株): 本社
- ・ガソリン/2.32kg-CO₂/L 各拠点共通

(b) 総発熱量

- ・電力使用時/3.6 MJ/kWh
- ・都市ガ/44.8 MJ/Nm³
- ・ガソリン/34.6 MJ/l

イ 特徴及び変化

- ・都市ガス: 本社ビルのみ
- ・ガソリン(車両台数): 本社 車両4台→3台へ減車
名古屋支店 5台(1台新車入れ替え)
富津工場 5台(一時的に6台)
- ・一般廃棄物: 月定額料金のため不明だったが、交渉の上計量開始中が名古屋ロジ、計量交渉中が富津工場、本社フォレストヒルは計量が管理費内のため排出量が不明だったが、本社ビルの2倍以上の従業員がいることから計量は必須と考え、管理会社と交渉中である。

3 全社指標の見直し

(1) 富津工場が参画になること及び商社部門のエネルギー削減(今後、機器の換装又は自動車の乗り換え、減車)が、現状において頭打ちで、売上当たり又は総量及び人数比を検討して後者の人数を最終値とした。富津工場参画にあたり生産高あたりの電力及び燃料使用量を指標に検討したが、業務量の変動に左右されない指標が望ましいに至った事もあり総量及び人数比としていく。直接的な環境負荷以外に、本業を通じて社会環境負荷改善にどのように貢献するかを環境目標に設定することを検討する。

(2) 富津工場の参画にあたり下記を「自己チェック表を」参考に下記を評価した。

- ・インプット/省エネルギー、省資源、節水、化学物質
- ・アウトプット/CO₂ 排出量抑制、廃棄物、排水
- ・製品・サービス/グリーン購入、製品・環境配慮品
- ・その他/環境コミュニケーション及び社会貢献
- ・増築、解体時の環境配慮

(3) 目標の指標の考察結果

ア 電気量: (kWh) / 一人当たりとする。

イ 燃料: (l) / 一人当たりとする。

車両の減車で大きく変化又は買い替えで燃費向上が期待でき、一人当たりで業務量の変動に左右されない指標として期待できる。また、車両の乗り換えで燃費は間違いなく向上する。走行距離及び使用年数等で乗り換えを推進していく。また、輸送を業としていないので燃費は指標にせず、一人当たり又は総量が望ましいとした。

ウ 一般廃棄物: (t) / 一人当たりとする。

社業の活性化及び整備により大きくなる場合もあるので、その要因を踏まえて総量をモニターしていく。

エ 産業廃棄物

法令に基づき適正な業者選定及び契約並びにマニフェストの適正な管理で排出量を把握していく。また、処理要領及びマニフェスト管理要領等を作成し準拠しつつ管理を維持する。



手順書



教育資料

4 2023実績値及び人数比

人数: 本社 83名、名古屋支店 50名、神戸支店 10名、富津工場 78名

	2023実績数				総計
	本社	名古屋	神戸	富津工場	
総エネルギー排出量 MJ	793,976.03	358,030.85	92,733.45	1,015,429.26	2,260,169.59
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	65,521.03	34,625.35	7,893.97	114,937.46	222,977.80
電力量 kWh	128,986.00	78,293.00	15,431.00	234,985.00	457,695.00
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	47,262.25	29,517.59	5,400.85	103,573.26	185,753.95
MJ	464,349.60	281,854.80	55,551.60	845,946.00	1,647,702.00
都市ガス Nm3	4,966.00	0.00	0.00	0.00	4,966.00
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	11,074.18	0.00	0.00	0.00	11,074.18
MJ	222,476.80	0.00	0.00	0.00	222,476.80
ガソリン消費量	3,096.81	2,201.62	1,074.62	4,898.36	11,271.41
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	7,184.60	5,107.76	2,493.12	11,364.20	26,149.67
MJ	107,149.63	76,176.05	37,181.85	169,483.26	389,990.79
OA用紙使用量 枚数	403,500	565,000.00	34,000.00	217,500.00	1,220,000.00
OA用紙使用量 ○ × 0.004209kg	1,698.33	2,378.09	143.11	915.00	5,134.52
一般廃棄物排出量 本社ビルのみ	1,234.00	2,378.00	232.00	—	3,844.00
水道使用量	895.00	635.00	0.00	734.00	2,264.00
	2023各拠点人数比				全体
	本社	名古屋	神戸	富津工場	
総エネルギー排出量 MJ	9,565.98	7,160.62	9,273.35	13,018.32	39,018.26
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	789.41	692.51	789.40	1,473.56	3,744.87
電力量 kWh	1,554.05	1,565.86	1,543.10	3,012.63	7,675.64
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	569.42	590.35	540.09	1,327.86	3,027.72
MJ	5,594.57	5,637.10	5,555.16	10,845.46	27,632.29
都市ガス Nm3	59.83	0.00	0.00	0.00	59.83
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	133.42	0.00	0.00	0.00	133.42
MJ	2,680.44	0.00	0.00	0.00	2,680.44
ガソリン消費量	37.31	44.03	107.46	62.80	251.60
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	86.56	102.16	249.31	145.69	583.72
MJ	1,290.96	1,523.52	3,718.19	2,172.86	8,705.53
OA用紙使用量 枚数	4,861	11,300.00	3,400.00	2,788.46	22,349.91
OA用紙使用量 ○ × 0.004209kg	0.25	0.95	1.43	11.73	14.36
一般廃棄物排出量 本社はフォレスト含	14.87	47.56	23.20	—	85.63
水道使用量	10.78	12.70	0.00	9.40	32.88
	2023人数比における全体の比率(%)				全体
	本社	名古屋	神戸	富津工場	
総エネルギー排出量 MJ	24.52	18.35	23.77	33.36	11,654.02
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	21.08	18.49	21.08	39.35	3,744.87
電力量 kWh	20.25	20.40	20.10	39.25	7,675.64
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	18.81	19.50	17.84	43.86	3,027.72
MJ	20.25	20.40	20.10	39.25	862,282.83
都市ガス Nm3	100.00	—	—	—	59.83
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	100.00	—	—	—	133.42
MJ	100.00	—	—	—	2,680.44
ガソリン消費量	14.83	17.50	42.71	24.96	251.60
CO2総排出量CO2排出量(kg-CO2)	14.83	17.50	42.71	24.96	583.72
MJ	14.83	17.50	42.71	24.96	905.78
OA用紙使用量 枚数	21.75	50.56	15.21	12.48	20,549.91
OA用紙使用量 ○ × 0.004209kg	1.72	6.62	9.97	81.69	14.04
一般廃棄物排出量 本社はフォレスト含	17.36	55.54	27.09	—	85.53
水道使用量	32.79	38.62	0.00	28.59	32.88

5 環境負荷の目標

2022年度を基準に今後は前年度を指標としていく。

CO2排出量及びエネルギー投入量をモニターしつつ、オフィスの改善ペーパーレスを強固に推進しつつDX化すすめるKPI(Key Performance Indicator)を定め評価を行いたい。

(1)環境目標とその負荷

人数比を中期目標とした。

本社 83名	2022年度	前年度1%減		人数比			2023年度人数比
		指標見直し	中期目標見直し(前年度1%減)				
		2022年度×0.99	2023年度	2024年度	2025年度		
総エネルギー排出量 MJ	359,431.60	355,837.28	4,287.20	4,244.32	4,201.88	9,565.98	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	64,803.81	64,155.77	772.96	765.23	757.58	789.41	
電力量 kWh	118659	117,472.41	1,415.33	1,401.18	1,387.17	1,554.05	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	43,518.32	43,083.13	519.07	513.88	508.74	569.42	
M J	271,893.60	269,174.66	3,243.07	3,210.64	3,178.53	5,594.57	
都市ガス Nm3	5,592.00	5,536.08	66.70	66.03	65.37	59.83	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	12,470.16	12,345.46	148.74	147.25	145.78	133.42	
M J	250,521.60	248,016.38	2,988.15	2,958.27	2,928.69	2,680.44	
ガソリン消費量	3,799.00	3,761.01	45.31	44.86	44.41	37.31	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	8,815.33	8,727.17	105.15	104.10	103.05	86.56	
M J	305,010.32	301,960.22	3,638.07	3,601.69	3,565.68	1,290.96	
OA用紙使用量 枚数	344,500.00	341,055.00	4,109.10	4,068.01	4,027.33	4,861	
OA用紙使用量 ○×0.004209kg	1,450.00	1,435.50	17.30	17.12	16.95	0.25	
一般廃棄物排出量 本社ビル 27名	3,726.00	3,688.74	136.62	135.25	133.90	14.87	
水道使用量	802.00	793.98	9.57	9.47	9.38	10.78	

※オフィス移転年度

名古屋支店 50名	2022年度	前年度1%減		人数比			2023年度人数比
		指標見直し	中期目標見直し(前年度1%減)				
		2022年度×0.99	2023年度	2024年度	2025年度		
総エネルギー排出量 MJ	359,431.60	355,837.28	7,116.75	7,045.58	6,975.12	7,160.62	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	34,343.90	34,000.46	680.01	673.21	666.48	692.51	
電力量 kWh	75,526.00	74,770.74	1,495.41	1,480.46	1,465.66	1,565.86	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	28,473.30	28,188.57	563.77	558.13	552.55	590.35	
M J	271,893.60	269,174.66	5,383.49	5,329.66	5,276.36	5,637.10	
都市ガス Nm3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)			0.00	0.00	0.00	0.00	
M J		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
ガソリン消費量	2,530.00	2,504.70	50.09	49.59	49.10	44.03	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	5,870.60	5,811.89	116.24	115.08	113.92	102.16	
M J	87,538.00	86,662.62	1,733.25	1,715.92	1,698.76	1,523.52	
OA用紙使用量 枚数	262,500.00	259,875.00	5,197.50	5,145.53	5,094.07	11,300.00	
OA用紙使用量 ○×0.004209kg	1,104.86	1,093.81	21.88	21.66	21.44	0.95	
一般廃棄物排出量	2,297.00	2,274.03	45.48	45.03	44.58	47.56	
水道使用量	635.00	628.65	12.57	12.45	12.32	12.70	

神戸支店 10名	2022年度	前年度1%減		人数比			2023年度人数比
		指標見直し	中期目標見直し(前年度1%減)				
		2022年度×0.99	2023年度	2024年度	2025年度		
総エネルギー排出量 MJ	87,027.40	86,157.13	8,615.71	85,295.55	84,442.60	9,273.35	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	7,008.60	6,938.51	693.85	6,869.13	6,800.44	789.40	
電力量 kWh	10,786.00	10,678.14	1,067.81	1,057.13	1,046.65	1,543.10	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	3,775.10	3,737.35	373.73	3,699.98	3,662.98	540.09	
M J	38,829.60	38,441.30	3,844.13	38,056.89	37,676.32	5,555.16	
都市ガス Nm3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
M J	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
ガソリン消費量	1,393.00	1,379.07	137.91	1,365.28	1,351.63	107.46	
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	3,233.50	3,201.17	320.12	3,169.15	3,137.46	249.31	
M J	48,197.80	47,715.82	4,771.58	47,238.66	46,766.28	3,718.19	
OA用紙使用量 枚数	30,000.00	29,700.00	2,970.00	29,403.00	29,108.97	3,400.00	
OA用紙使用量 ○×0.004209kg	126.27	125.01	12.50	123.76	122.52	1.43	
一般廃棄物排出量	212.00	209.88	20.99	207.78	205.70	23.20	
水道使用量		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

前年度1%減

富津工場 78名	2023年度	指標見直し	中期目標見直し(前年度1%減) 人数比			2023年度人数比
		(2023年度全期2倍)×0.99	2023年度	2024年度	2025年度	
総エネルギー排出量 MJ	972,449.42	962,724.93	12,342.63	12,219.20	12,097.01	13,018.32
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	112,088.73	110,967.84	1,422.66	1,408.44	1,394.35	1,473.56
電力 kWh	235,076.00	232,725.24	2,983.66	2,953.82	2,924.28	3,012.63
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)全期	103,628.39	102,592.10	1,315.28	1,302.13	1,289.11	1,327.86
M J	846,273.60	837,810.86	10,741.16	10,633.75	10,527.42	10,845.46
都市ガス Nm3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
M J	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ガンリン消費量	3,646.70	3,610.23	46.29	45.82	45.36	62.80
CO2総排出量CO2排出量 (kg-CO2)	8,460.34	8,375.74	107.38	106.31	105.24	145.69
M J	126,175.82	124,914.06	1,601.46	1,585.45	1,569.59	2,172.86
OA用紙使用量 枚数	240,000.00	237,600.00	3,046.15	3,015.69	2,985.54	2,788.46
OA用紙使用量 ○×0.004209kg	1,010.16	1,000.06	12.82	12.69	12.57	11.73
一般廃棄物排出量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
水道使用量 全期	734.00	726.66	9.32	9.22	9.13	9.40

ト半期×フ

(2)環境経営計画

使用量及びCO2排出量を基準年と比較しつつ、毎月の変動に注視していく。

(6. 環境経営目標及び環境経営計画の策定)		承認	確認	作成
2023年度 環境経営計画書 2023.5.11 ※今期は富津工場が含まれている。かつ、この表でいう二酸化炭素排出係数は東京ガス(個別は別途資料参照)		了	了	了
		代表者	経営管理部長	環境管理部長
方針	目標 (方針に掲げた取組項目は必ず挙げる) (負荷の自己チェックで特定した項目)	目標達成手段 (取組の自己チェックで重点取組に◎した事項)	定期的な確認・評価・是正(挽回策)	
二酸化炭素排出量削減	電力による二酸化炭素削減 基準年度実績 376,936 kWh 2022年 75,767 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数: 0.277 ※各拠点により異なる kg-CO2/kWh 2023年度目標 基準年度比 99% 削減率 -1.0% 目標値 75,009 kg-CO2 373167 kWh 2024年度目標 72,736 96% 2025年度目標 71,978 95%	・空調の室温の適正化(冷房28℃ 暖房20℃) ・不要照明の消灯、LED化検討 ・早期退社の実施(残業時間の圧縮) ・執務時間外、生産工程の待機時間短縮 ・空調室内外気の温度差検、コンプレッサエアー漏れ点検 ※基準年は商社部門のみ一評価は全て×表示 【目標未達成時の挽回策】 ・今季から富津工場を合計 ・前年のピーク時に啓発のアクション通知 【中期計画】 ・後期の短縮、残業時間短縮 ・省エネタイプ(エネルギー効率の高い)照明を検討	1四 消防設備を優先にLED化をさらに進める。 2四 働き方改革及びフレックス制度導入で、一日の空調機器使用時間が大きく伸びた。よって、こまめな不在位置の空調停止が求められる。 3四 早い季節の変化から空調の設定に着目して快適化を目指す。 総括 総量では6%の増加となったが、原単位では約3%の削減となった。空調温度の適正化に取り組み定着できた。ノー残業デーを浸透させてみる試みも衛生管理の観点からも省エネ観点の両方を得られると推測。QSMの関係系からバランスを図る。業務効率化の推進で、次年度は改善活動を推進する。各拠点の排出係数が異なる場合の総計として、様式の改修を引き続き行う。	
	都市ガスによる二酸化炭素削減 基準年度実績 5,592 m ³ 2022年 12,470 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数 2.23 2023年度目標 基準年度比 99% 削減率 -1.0% 目標値 12,345 kg-CO2 5,536 m ³ 2024年度目標 11,971 96% 2025年度目標 11,847 95%	・室温が最適になる設計の徹底 ・給湯の温水温度の適正化 ※LP基本料金近似的のため対象から外す。 ・ 【目標未達成時の挽回策】 ・意図した換気のアクション ・空調用のため削減への取り組みは比較的しやすい 【中期計画】 ・不要な箇所の断熱または短縮 ・省エネタイプ(エネルギー効率の高い)エアコンへ更新済み ・窓への遮熱フィルムの検討 ・冬季は間に段ボール貼り及び窓にクッション材	1四 トータル使用時間と適切な室温と温度管理が課題と推測するが、人それぞれの感じ方性質が異なる中、三方よしのアイデアを出し合うきっかけがあるとよい。 2四 同上 3四 全館改装して気象条件と、新空調機器の性能とを期待したい。	
	自動車燃料による二酸化炭素削減 基準年度実績 2022年 ガソリン 7,724 ℓ 軽油 0 ℓ 17,919 Kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数: ガソリン 2.32 軽油 2.58 2023年度目標 基準年度比 99% 削減率 -1% 目標値 17,740 Kg-CO2 2024年度目標 17,382 97% 2025年度目標 17,203 96%	・アイドリングストップ ・効率的なルートで配送 ・レンタカー使用時は高燃費車を選択 ※軽油は年1回程度、少量のため対象外予定だったが契約額上限で我費機と車両に給油するので、購入燃料として購入履歴からモニターしていく。 【目標未達成時の挽回策】 ・長期間使用で燃費は低下は避けられないのでハイブリッド車に乗り換える。 【中期計画】 ・共同配送の実施 ・更新時に低燃費車を選択	1四 営業車の利用率は減車したが相変わらず、多くない。12月に日程eノートを名古屋に移管、名古屋支店の1台を売却。本社は11月からフーガを富津工場に移管し新たにレクサスハイブリッド車をリースしたが、ほとんど毎日使用するので、使用量は一昨年から増増である。 2四 本社から富津工場に移管したフーガはリース継続。既にあったフーガは2024、3末で売却したので、富津工場の台数は変わらない。 3四 保有台数:本社3台(全リース)、名古屋5台(2台リース)、富津工場5台(1台リース) 中途社員の運転技術に疑問があったので、厳重注意とした。 総括 中途入社社員への例年の自動車教習は乗車経験が一定期間あるので、エコドライブ講習を行わなかった。2~4名は同じ費用なことから、人数が集まって新入社員と合わせて、2025年度は計画を検討する。	

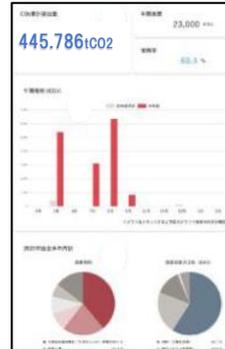
廃棄物 排出量 削減	一般廃棄物の削減		<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底 ・シュレッダー废纸のリサイクル化推進 ・電子化促進による印刷物の削減 ・梱包材の再利用 	基準値は約60名のフォレストヒルズは、高価回収だったが排出量は判明した。ただし2023年から一般ゴミの回収は管理費に含まれ、量の算出が自動的にできなくなった。富津工場は元々、定額での回収のため排出量が割れ	
	基準年度実績	2022年 5,786 kg			1四
	2023年度目標	基準年度比 93%			2四
	削減率	-1%			3四
産業廃棄物の削減	産業廃棄物の削減		<ul style="list-style-type: none"> ・作業ミスによる廃棄量の削減 ・素材別ボックスの設置 ・リサイクル業者の開拓検討 （仕置は売却も可能だが単独だと工場の方が安く、一費用からすると廃廃、エコからするとリサイクル） 	各種品で大量に什器等が集まらないうえ、作業工場の方が高つくが、産廃ではなくリサイクル事業として排出も産廃の方が経費安の場合もある。エコアクションでは両天秤でリサイクルを重点としているが、単発ではかなり割高となる。結果が同じであれば産廃となる一環では費用がかららない方を選択	
	基準年度実績	2022年 8,118 kg ※富津工場はなし			1四
	2023年度目標	基準年度比 93%			2四
	削減率	-1%			3四
水道水の削減	水道水の削減		<ul style="list-style-type: none"> ・節水シールの貼り付けとポスター掲示 ・節水弁取り付け検討 ・新機以外の自動水栓取り付け検討 ・トイレに節水装置取り付け 	人数比に応じた水量が確認	
	基準年度実績	2022年 2,108 m ³ 富津工場想定含む			1四
	2023年度目標	基準年度比 100%			2四
	削減率	0%			3四
環境に配慮した生産活動	環境に配慮した生産活動		<ul style="list-style-type: none"> ・不良率低減 ・機器の適正なメンテナンスにより稼働率向上 ・顧客クレーム削減 ・廃棄率削減(加工時等に塵が発生しない設計) ・極少量のため一般廃棄物として処理可能 	製造するうえで多少なりと、金属、ゴム系の廃棄物は排出されるが、通常の生活ゴミより少なく、一般廃棄物として排出している。	
	基準年度実績	2022年 2,108 m ³			1四
	2023年度目標	基準年度比 100%			2四
	削減率	0%			3四
課題を解決しチャンスを活かす取組	課題を解決しチャンスを活かす取組		<ul style="list-style-type: none"> ・採用促進等による技術の継承 ・企業PRによる顧客獲得 ・事業拡大のための資金調達、人材確保 ・新製品・商品開発 ・働き方改革 ・新規金融機関 千葉銀行 	生産で水を使うのではなく、出しっぱなし等でなければ、通常の範囲での生活用水量の使用量であった。水サーバーが浸透しており、節水頭打ちにもある。異常使用量の有無をモニターしていく。	
	基準年度実績	2022年 2,108 m ³			1四
	2023年度目標	基準年度比 100%			2四
	削減率	0%			3四
年間活動計画	年間活動計画		<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針・目標・活動計画の周知 ・環境目標・環境活動進捗状況確認・評価 ・資格取得・更新のための研修会等の推進 ・定期的に実施(繁忙期以外、火災演習などの機会) ・遵守事項前に環境関連法規等の追加、改正を確認する ・意識啓蒙 ・振り返って方針・目標・活動計画等を見直す ・作成と地域連携風への選定 ・余裕をもって2か月前には申込み 	製造するうえで多少なりと、金属、ゴム系の廃棄物は排出されるが、通常の生活ゴミより少なく、一般廃棄物として排出している。	
	○ 環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一般教育 ・人的資本の一つ ・内部監査員講習会 			1四
	○ 緊急事態対応訓練				2四
	○ 環境関連法規等の遵守評価				3四
○ 生物多様性		1四			
○ 代表者による全体の評価と見直し		2四			
○ 環境経営レポート		3四			
○ 審査申し込み		1四			
○ 会社周辺の清掃活動		2四			
計画:○(点線) 実績:●(実線)			3ヵ月ごとに確認し、累計評価欄がXの場合は是正策として、達成手段を検討するレビューは半年毎とし、環境管理責任者は必要に応じて指示を行う		

- ア 電力による二酸化炭素削減
- イ 都市ガスによる二酸化炭素削減
- ウ 自動車燃料による二酸化炭素削減
- エ 一般廃棄物の削減
- オ 産業廃棄物の削減
- カ 水の削減
- キ 環境に配慮した生産活動

ク 課題を解決しチャンスを活かす取組

ケ CO2排出量を自動で可視化(C-checker) ※千葉銀行

- ・CO2 の排出に繋がる活動量(電気、ガス、ガソリン等)の入力でダッシュボードにグラフ表示
- ・前年度との排出量の比較や傾向を把握
- ・設備投資等の計画立案に活用する、



(3)富津工場の中期目的・目標設定表

目的	2023年度目標	実施	検討	2024年度目標	実施	検討	2025年度目標	実施	検討
5S活動の推進による生産性向上及び環境危険リスク予防、場内外の美化	整理整頓の実施 ・不要不急品の放出、整頓 ・廃棄物保管場所の整理、改善 ・排水路の管理 ・中間ストック改善 ・火災予防と対応策	●		清掃・清潔の実施 ・身の回りの小物 ・共通清掃時間の設定検討 ・5S(5C)発表検討	●		しつけ ・ルール化検討		●
生産性向上及び資源エネルギーの削減 ・人数辺りCO2排出量 2023上半期比 99%	人数当たり電力使用量を前値 ・照明の間引き ・冷暖房温度管理 ・生産計画の改善 ・アイドルストップ ・インバーター、LED化推進	●		人数当たり電力使用量を前値 ・手順、段取り改善 ・インバーター、LED化推進		●	人数当たり電力使用量を前値 ・手順、段取り改善 ・インバーター、LED化推進		●
一般廃棄物、産業廃棄物の減容化及び※月契約の回収で分別量はとれない	廃棄物の再資源化(分別) ・富津市の分別基準の順守 ・コピー用紙のリサイクル化 ・鉄くず類の分別再資源化 ・油等ウエスのリサイクル化検討 ・再利用ものの検討	●	●	廃棄物の再資源化(分別) ・油等ウエスのリサイクル化検討 ・廃プラのリサイクル検討		●	廃棄物の再資源化(分別) ・廃プラのリサイクル検討		●
製造品輸送及び利用時の環境配慮 ・グリーン調達推進等	・取りしる低減	●	●	・取りしる低減	●		・取りしる低減	●	

※実施：具体的に実施する項目
検討：新規に採用などの検討確認

(4)生産性向上(=サービス向上)促進

web会議、クラウド決算などペーパーレスが加速しつつも、更なる業務処理の効率化(ICT※1活用含む。)が必要

※1:Information and Communication Technology の略称。「情報通信技術」

2022年に能力向上のため「パソコン決済(Shachihata Cloud)」のも業務時間の短縮は功を奏している。

(5)環境負荷物質

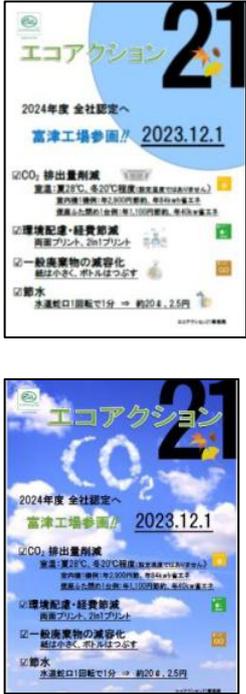
取扱商品に使用禁止物質が使用されていないことを、RoHS(Restriction of Hazardous Substances)対応証明等により、含有されていないことを保証して継続した営業活動を行った。

(6)環境教育

Web プログラムへ参加、書面配布による消防訓練、初期消火の実技訓練などを行うと共に、社内ポータルサイトにて掲示し、全社向け(個人アドレスへ)に防災通信として配信した。(26回)

6 活動計画と取組結果の評価等

(1)全般

	項目	内容	結果	評価
1	<p>総エネルギー使用量及びCO2 排出量の削減</p> 	<p>【節電】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不要照明の消灯 社員のエレベーター使用の原則禁止 昼休み時のOA 機器電源断の励行 COOLBIZ(28℃以上)及びWARMBIZ(20℃以下)になるように設定の継続 暖房便座のふた閉め ウオッシュレットの暖房(節電)設定 <p>【燃料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 車両使用時の適正空気圧で燃費向上 エコドライブ <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> レンタカー及びシェアカー利用を推奨 空調機フィルターの清掃 	<p>【節電】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社員数増及びオフィス移転に伴う総エネルギー使用量が増加 外気取り入れの継続 COOLBIZ 及び WARMBIZ 時は特に体感温・湿度が個人により大きく異なるので生産性の落とさない体感温度になるような温度設定を継続 <p>【燃料】</p> <ul style="list-style-type: none"> リース車両で高燃費車へ乗り換え時期を検討したが走行距離から1台をハイブリッド車に変更する。(納車:2023.7→2023.12 名古屋支店に移管) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空調効率向上のための室内機器の内部清掃 	<ul style="list-style-type: none"> コスト意識が徐々に拡大しつつあるが削減につながっていない。(ポスター掲示) OA 紙はペーパーレスが徐々に浸透してきているが社業により大幅増ともなる。 一廃棄物の本社はフォレストヒルズが単独で算出できなくなった..よって、増大の要因は本社ビル単独で大幅な増加となり更なる減容の推進を行った。 支店加入から4年を経過したこともあり削界は頭打ち以上の兆候もあり富津工場が参画に伴い、中期目標を再考して前年度を目標とした。
2	<p>オフィス業務効率向上(OA 用紙)及び一般廃棄物の削減</p>	<p>【オフィス業務の用紙削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2in1、4in1、両面機能などで枚数の節約 <p>【廃棄物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持ち込みゴミは持ち帰る(マイボトルの推進) 可燃ごみの圧縮 不要文書の廃棄の促進 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率運動の社内啓発の強化 	<p>【オフィス業務の用紙削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーレスが推進つつ社業により大きく増加に転じた。 <p>【廃棄物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 減容の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器類の積極的導入により会議時のペーパー減と共にマンパワーを付加価値の高い業務に移行させていく。
3	<p>節水の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ウォーターサーバー利用(防災備蓄を兼ねる。) 化粧室の消音機の活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ウォーターサーバー導入により利便性向上(マイボトルを更に推進) 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の行動の積み重ねが重要なため、啓発を重ねていく。
4	<p>産業廃棄物の削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> マニフェストによって適正処理 減容化 	<ul style="list-style-type: none"> 適正処理の確認をした。 	<ul style="list-style-type: none"> マニフェスト発行の報告を確認した。
5	<p>社会貢献活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の町会活動事業に協力 	<ul style="list-style-type: none"> 営業日はビル周辺道路の美化実施。(土地柄がタバ 	<ul style="list-style-type: none"> 営業部以外の活動の現況がとりにくい。

		・港区タバコルール協力企業登録を継続	コ吸い殻、飲食物ゴミが多い。)・周辺の事業者に対して、一時的な駐車スペースを提供	
--	--	--------------------	--	--

(2)総合的な評価

ア 全体の評価

- ・厳しい気象の長期化、一時的な廃棄物の増加、ペーパーレスは業務効率化と合わせて更に推進が必要
- ・主要エネルギー関連は、働く環境及び気象に左右される、物理的な削減は限界値でもあり新中期計画は前年度実績を基準にした上で、多様な働き方も推進していく。
- ・富津工場への認証拡大は、測定は電気水道、今年度に定額で排出量が不明だった一般廃棄物の測定を開始する。

イ 環境教育

社内ポータルサイト(JPC CONNECT)を活用の継続、新入社員教育でエコアクションに加えSDGs※への取組区別を見据え環境経営上のムリ・ムダ・ムラの削減を推進していく。

※Sustainable Development Goals の略称。「持続可能な開発目標」

ウ 金融機関の優遇金利(サステナビリティ・リンク・ローン)利用

2023. 8一定の金額融資を得られた。

- ・融資及び融資枠の確保、金利面のメリット
- ・新規金融情報入手ルートを得ることができた。
- ・新規銀行との関係が構築できたことにより、地域との関係性発展に期待が持てる。

エ その他

再生可能エネルギーへの利用転換を継続して検討していく。

7 法規制の遵守状況

環境、廃棄物及び労働安全衛生法などにより遵守されている。
なお、外部からの苦情などはない。

8 経営者による見直し

二酸化炭素削減策の他に下記を検討実施に至る。

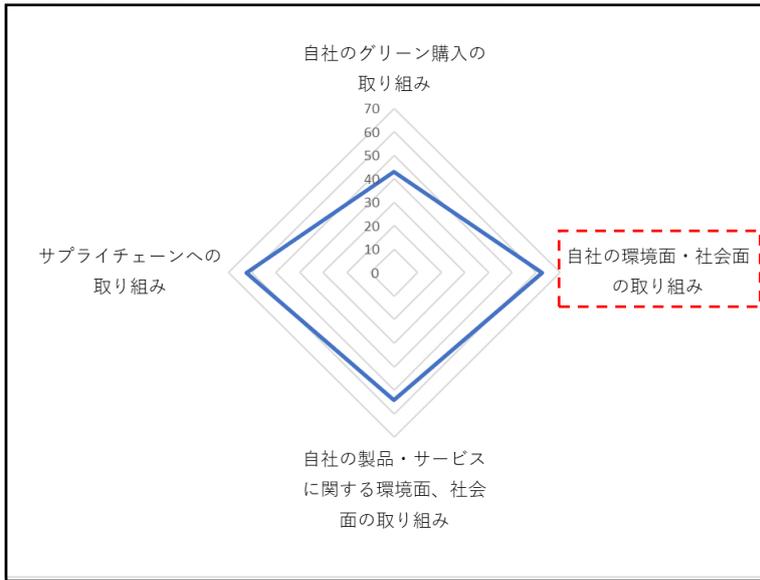
- (1)生態系のバランスを保つため害獣対策としての生物多様性から、富津市と協議して富津工場の周囲3ヶ所の道路端の林の木々を段階的に伐採していく。(2023年度は富津工場西側約 2250 m²程度伐)
- (2)内部監査の運用(交差監査)
- (3)本社ビルの換装したガスヒートポンプエアコンの検証
2023年11月に換装したが例年と気候も異なり、昨年度の同時期の1/3程度のエネルギー使用量であり換装の効果があった。
- (4)富津工場への拡大に伴い、全体の見直しの中から、緊急的に対応するものと段階的かつ効果的な設備投資(LED化)並びに一番の負荷の電力削減策策について継続検討していく。
また、業務量の変化に左右されない人員数を共通評価の基準にしつつ、毎前年度比を通じて環境経営にどうよい影響をもたらすか着目してほしい。

9 その他の課題/評価

- (1)環境経営マニュアル及び事務局運営要領等の作成(意識改革と足元の強化)
 - ・文書管理台帳
 - ・関連文書の作成
 - ・記録の保管要領の明確化

- ・監査に関する書面用紙
- ・事業継続計画(BCP)策定の構想との関係性強化

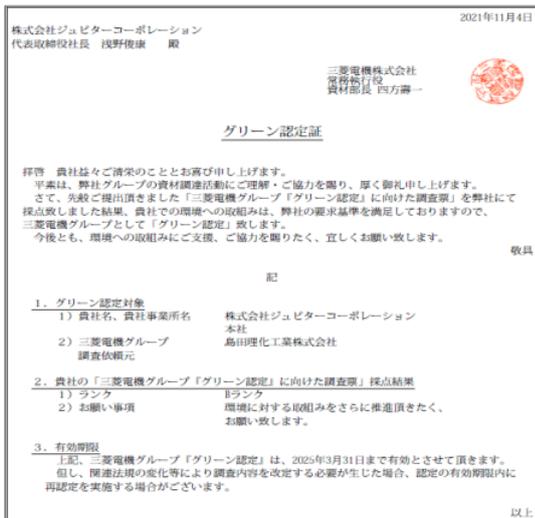
(2) 持続可能な調達アクション評価(自主試行)



項目	課題	達成状況	備考
環境への取り組み			
1.1	「環境」に関する方針、報告書の公表状況	1. 方針を定め、公表している 2. 方針を定めているが、公表していない 3. 方針を定めていない	1
1.2	環境対策への費用対効果	1. 環境対策費用等から削減する効果(経費削減)と削減効果(削減額)を算出している 2. 削減効果から削減の効果が算出されている 3. 算出していない	1
1.3	社会の労働環境における多様な環境負荷削減の取組	1. 環境負荷削減と目標を定めて取り組んでいる 2. 環境負荷削減と目標を定めていない 3. 取り組んでいない	1
1.4	多様な労働環境(性別、年齢、障がい)の多様な環境負荷削減の取組	1. 環境負荷削減と目標を定めて取り組んでいる 2. 環境負荷削減と目標を定めていない 3. 取り組んでいない	3
1.5	気候(温暖化、エネルギー、水、大気)の取組	1. 気候の取組目標や評価を定めて取り組んでいる 2. 気候の取組目標を定めていないが、取り組んでいる 3. 取り組んでいない	1
1.6	再生可能エネルギーの取組	1. 再生可能エネルギーを導入している 2. 再生可能エネルギーを導入する取組がある 3. 再生可能エネルギーを導入していない	3
1.7	気候変動リスクの取組	1. 気候の取組目標や評価を定めて取り組んでいる 2. 気候の取組目標を定めていないが、取り組んでいる 3. 取り組んでいない	1
1.8	気候変動リスク排出削減の取組	1. 気候の取組目標や評価を定めて取り組んでいる 2. 1,2年の気候目標を定めている 3. 目標を定めていない	1
1.9	水、大気、土壌、生態系の保全	1. 評価があり、評価に沿って取り組んでいる 2. 評価は行っていないが、取り組んでいる 3. 評価を行っていない	4
1.10	廃棄物の削減	1. 評価があり、評価に沿って取り組んでいる 2. 評価は行っていないが、取り組んでいる 3. 取り組んでいない	4
1.11	SDG11、SDG13(気候変動)の取組	1. 削減、公表している 2. 削減目標を定めていないが、削減で削減効果(削減額)を算出している 3. 削減、公表はしていない	1
1.12	環境法に基づいた取組	1. 削減に努めている 2. 削減に努めていないが、取り組んでいる 3. 取り組んでいない	1

※課題の創出

(3) お取引様からのグリーン認定



(4) 本社消火訓練



模擬目標(火元)が正しい放水の過程をたどれば、
模擬目標は後方に倒れる。
※廃材利用で自社作成

※本社ビル屋上